

## ゆめ畑大野城店 7周年大感謝祭



ゆめ畑大野城店は4月29日～5月1日までの3日間、利用者の皆様に日頃の感謝を込めた「7周年大感謝祭」を開催。イベントを心待ちにした来店者約3600人(3日間合計)で店舗は賑わいました。

大感謝祭は、地元野菜や米の特価販売の他に、露店販売や大野城市の郷土料理「ぼっかけ」の無料配布など、様々な企画で来店者を楽しませていました。ゆめ畑大野城店の緒方一寿店長は「出荷者・利用者皆様のおかげで7周年を迎えられました。今後も活気ある店舗づくりに励んでいきたいです。」と話していました。

## 麦作共励会で8人を表彰



JA筑紫麦出荷者部会は、物流センターで「第6回JA筑紫麦出荷者部会通常総会」を開催。総会の中で「平成27年度JA筑紫麦出荷者部会麦作共励会」の表彰式が行われ、部会員と福岡普及指導センター、行政関係者、JA職員など52人が参加しました。

表彰式では、はだか麦の部(4ha以上・未満)と小麦の部(4ha以上・未満)で、各優秀賞・優良賞計8人を表彰。受賞者は、笑顔で表彰状を受け取りました。

## 魅力ある直売所目指す



JA筑紫は4月27日、本店で「平成28年度JA筑紫ゆめ畑出荷者大会」を開き、ゆめ畑出荷者や、来賓、JA役職員など133名が参加しました。この大会は、より魅力的な直売所づくりを目指し、出荷者一丸となって出荷拡大の意識や技術向上に努めることを目的に毎年開催しています。平成27年度事業報告や平成28年度計画の他、地域農業振興に大きく貢献した生産者などを対象とした表彰式が行われました。

## JA筑紫稲作部会が総会



JA筑紫稲作部会は21日、「2015年度JA筑紫稲作部会総会」を開催。部会員と福岡普及指導センター、JA職員など23人が参加しました。

総会では、平成27年度の活動報告や、今年度の活動計画・予算などの全5議案が承認されました。また、農作業安全対策の資料が配られ、普及センターの指導のもと農繁期を前に安全確認を行いました。

部会は、稲作の生産向上と、地域のリーダーとして農業振興および経営の安定向上を図り活動しています。

## タケノコの保存方法を学ぶ／JA筑紫女性部農業関係グループ



JA筑紫女性部農業関係グループは、4月21日、営農センター2階で女性部農業関係グループ研修会を開き、16人が参加しました。

今回の研修会のテーマは、「タケノコの保存方法」。女性部員の平山睦子さんが、米ぬか・塩・水を使ったタケノコの保存方法を紹介し、参加者は熱心に聞きっていました。また、タケノコを使った常備菜など家庭の味を持ち寄り、レシピを教え合う姿も見られました。

参加者は、「今日学んだことを活かして、タケノコを上手に保存し、旬の味を長く楽しみたい」と話していました。

## 第43回JA筑紫女性部通常総会

JA筑紫女性部は4月19日、本店で「第43回JA筑紫女性部通常総会」を開きました。女性部部員とJA役職員など208人が参加しました。

総会では、2015年度の活動報告や、今年度の活動計画・予算などの全4議案が承認されました。また、ふれあいの旅参加者率や検診受診率などをもとに、積極的に活動している支店に対して表彰が行われ、上位3支店が表彰状を受けとりました。

女性部役員の三宅静代本部長は、冒頭の挨拶で「女性部員の皆さんには、今まで引き継いできた知恵を、色々な場面で発揮してほしい。」と挨拶しました。

今年度も女性部活動の中で、部員達のいきいきと輝く姿が期待されます。

## 研修会で食育を学ぶ／「女性部リーダー研修会」



JA筑紫女性部は4月19日、本店で「女性部リーダー研修会」を開催。女性部のリーダーを務める201人が参加しました。研修会は、リーダー（班長以上）としての心構えを学んでもらい、女性部活動への意欲増進と、更なる活性化に繋げる目的で毎年行われています。研修会では、大分県佐伯市役所地域振興課「食育推進・男女共同参画係」総括主幹の柴田真佑氏を講師に招き、「食べることは生きること～泣ける！笑える！食育のススメ～」を演題に講演を行いました。被災地支援に係る食育の話もあり、参加者達は、命を繋ぐ大切さについて学びました。

## 女性部の活動に参加しませんか？



JA筑紫女性部はこのたび、女性部員の増員を目指したポスターを手作りで作成し、JAの金融店舗や事業所に掲示しています。ポスターは、地区ごとに作成し、女性部の説明や活動内容、加入の特典など情報が満載。また、活動の様子が伝わる様に、写真を多く使用しています。さらに、カラフルなペンを使ってポップに仕上げ、目を引くポスターになっています。

JA筑紫女性部の三宅静代部長は、「ポスターは、女性部員で協力して作成した。地区ごとでそれぞれ手作りしているので、一枚一枚思いが込められている。是非、ポスターを見た人が、部員加入のきっかけに繋がれば嬉しい。」と話していました。

## JA筑紫青壮年部が総会



JA筑紫青壮年部は、「第38回JA筑紫青壮年部通常総会」を同JA営農センターで開催しました。

総会では、新たに八尋隆彰部長と役員12人が承認された他、平成27年度の活動報告や平成28年度の活動計画など全4議案が承認されました。

八尋部会長は「組織活動の強化を重点的に図ってまいります。」とあいさつしました。

## れんげが満開「れんげ米夢つくし」



筑紫野市本道寺の棚田では、ピンク色のれんげが満開になっています。この圃場には5月に入ると「夢つくし」の田植えを予定しています。JA筑紫では、こだわり米の基準を全て満たしたものを「れんげ米夢つくし」として販売しています。れんげ米は、JAが指定する中山間地を中心とした地域で栽培され、自然豊かな本道寺も指定地域に含まれます。

「れんげ米夢つくし」の特徴である栽培方法は、れんげの根粒菌を活用します。それが肥料となって地力を増進し、減農薬・減肥料や強い稲に育つ効果があります。生産者の方々は、昔ながらの栽培方法で安全安心な米づくりを進めて田植えに備えます。

## 経済を学ぶ／「平成28年度経済担当職員研修会」



JA筑紫は4月13日、14日の2日間、営農センターで経済担当職員と新入職員を対象に「平成28年度経済担当職員研修会」を実施し、合計108人が参加しました。

研修会は、新たな中期3か年計画に沿った経済事業を進める上で、職員の意思統一と経済に関する知識向上を目的とします。内容は、平成27年度の経済事業実績報告及び平成28年度経済事業目標の確認と、営農生活部各課から今年度の具体的な取り組み事項等を説明。参加者は、メモを取りながら真剣に耳を傾けました。

経済担当常務の宇野宏省常務は「今年度の目標に向かって、しっかり頑張ってください。」と話しました。

## 安全運転の技術を習得



JA筑紫は4月8日、JA本店で新任金融渉外職員に対するバイク運転訓練を行いました。この訓練は、業務中にバイクを使用する職員の交通事故防止を目的としています。当日は、南福岡自動車学校関連会社「事故なき社会(株)」から教官を招き、新任金融渉外職員8人が参加しました。安全運転講話を受講後、本店敷地内で運転実技を実施。運転姿勢・ギア操作の基礎練習から、バランス走行などを学びました。参加者達は、真剣な様子で教官の指導を受け、運転技術の習得に励んでいました。

## 今年も健苗を育成／(株)JAアグリサポート筑紫「水稲播種式」



JA筑紫と(株)JAアグリサポート筑紫は4月7日、JA本店の育苗センターで、今年産の水稲の播種を始める、平成28年度水稲播種式を行いました。式は、健全な水稲苗の生育と、作業の安全を祈るものです。今年産は、およそ5万5,000箱を播種し、出荷する予定です。

JA筑紫の藤政行組合長は「きちんとした健苗を育て、期日までに届けましょう。苗を心待ちにしている組合員に喜んでもらえるよう、今年も頑張ってください。」と話しました。

## 食育の知識を深める「ちゃぐりん」寄贈



JA筑紫は4月7日、筑紫野市役所の教育委員会を訪ね、家の光協会発行の子供向け情報誌「ちゃぐりん」25冊を寄贈しました。

JA筑紫は、教育文化活動の一環として家の光3誌の普及に取り組んでいます。特に小学生には、「食と農の学習」に役立つ「ちゃぐりん」を幅広く読んでもらおうと、教育委員会を通じて、各小学校に毎月25冊を2年間寄贈しています。「ちゃぐりん」を受け取った筑紫野市教育委員会の上野二三夫教育長は「学校では食育に力を入れています。本を通じて農業や食について学び、子供たちの健康づくりに役立てたいです。」と笑顔で話していました。

## デイサービス利用者が花見



デイサービスセンターJA筑紫アネシスは、4月1日～7日まで、福岡県朝倉市の甘木公園で、利用者と花見を行いました。花見は、利用者が楽しみにしている恒例行事。日頃、室内で過ごすことが多い利用者の方に、季節を感じてもらったりや下肢機能の維持向上を目的としています。

5日は、利用者7名とアネシスの職員らが参加。利用者は、公園内を散歩しながら花見を楽しんでいました。利用者は「満開の桜を見ることができて嬉しい。良い運動にもなった。」と笑顔で話していました。

## 健全な苗を目指して／「平成28年度水稲種子温湯消毒」



(株)JAアグリサポート筑紫は4月4日、JA本店横の育苗センターで平成28年度水稲種子温湯消毒を開始。約3840箱分の「夢つくし」種子を温湯消毒しました。

今年度は、約5万5000箱分の種子を13回に分けて行う計画です。温湯消毒は、健全な苗を育てる為に、いもち病・ばか苗病・イネ苗立枯細菌病などの病気や、イネ心枯線虫などの病害虫から種子を守る効果があります。作業は、種子を60℃の温湯に10分間侵漬し、直ちに冷水中に漬け一気に冷やし、その後、芽が出るまで水槽に浸します。温湯消毒された種子は、機械で播かれ、25～30日間の育苗期間を経て、農家に届けられます。

## 麦の無人ヘリ防除始動



麦刈りシーズンを前に、4月2日からJA筑紫無人ヘリ防除作業部会による麦(イチバンボシ、チクゴイヅミ)の防除作業が始まりました。

平成28年度麦防除作業の依頼件数は41件で、面積は174ha。作業は、麦刈り前の5月上旬頃まで行う計画です。

部会は、無人ヘリ2台による米・麦・大豆防除活動に取り組んでいます。適期防除をするために作業の効率を上げようと、オペレーター・ナビゲーター・作業員の3人1組で役割を分担。ヘルメット着用その他、農薬を散布するヘリの高さにも十分に注意を払っています。

## 新入職員決意新たに／「入組式」



JA筑紫は4月1日、本店で「平成28年度 新入職員入組式」を行った。20名の新入職員は、決意を新たに式に臨み、緊張した様子で辞令を受け取りました。

新入職員代表の木村織音さんは、「組合員・利用者から信頼される職員になるよう努力します。」と、力強く決意を表明しました。藤政行組合長は「一緒に頑張りましょう。」と新入職員を激励しました。